

ありふれた異状死・内因性急死 ―酔った状態で お風呂に入ってはいけない―

笠間市立病院 石塚恒夫

昨年11月、県医師会で死体検案医認定研修会があり、当院でも検案をする機会があるため参加しました。死体検案とは、医師が異状死体を診察(検死)し、死因を診断する行為です。異状死とは法医学用語で、「診療中の病気による死亡」以外のすべての死亡を指し、外傷や中毒などの外因死、病気ではあるが生前に診断がつかなかった内因性急死などが含まれます。研修会が開催された背景には、東日本大震災の津波災害や独居高齢者の増加に伴う異状死取り扱い件数の増加があります。

監察医制度により死因不明遺体を遺族の承諾なしに行政解剖する東京23区の場合、平成21年度の異状死は全死亡の18・5%と報告されており、決して珍しいものではありません。その異状死の70・2%が内因性急死であり、その大半が心筋梗塞や脳卒中(特に脳出血・くも膜下出血)などの血管の病気で、

特記すべきは、法医学の隠語で「風呂溺」と呼ばれる風呂場での溺死の多さです。これは高温の湯を好み深い浴槽につかる

日本特有のもので、震災被害に匹敵する1万4千人の方が毎年亡くなります。冬場、高齢者は注意が必要で、県の報告でも寒期が76・6%、65歳以上が86・6%を占めます。多くが心筋梗塞や脳卒中に起因しますが、それらの所見がない場合、飲酒との関連が示唆されます。アルコールには利尿作用があり、手足の血管が拡張するので全身を流れる血液量は減少します。そこで高温の風呂に入るとさらに手足の血管が拡張し、脳に流れる血液量が減少し、意識低下してしまうのです。入浴中にウトウトしてしまうのは、風呂溺の一手前の状態です。

急性に発症したようにみえる病気でも、動脈硬化などの慢性的状態が背景にあります。入浴は飲酒前にするなど、自分は何に注意して生活すればいいのかを理解し、予防することが長生きの秘訣なのかもしれません。



笠間のがんばる企業紹介 38

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業を紹介いたします。

キヤノン化成株式会社

今回は安居地区にある岩間工業団地内で1995年から岩間事業所として操業されているキヤノン化成株式会社(本社つくば市)を紹介いたします。岩間事業所小川弘二取締役にお話を伺いました。

―笠間市への立地経緯および業務内容を教えてください。―

トナーカートリッジ生産の需要増加に伴い新工場が必要となり、常磐道の岩間インターから5分という交通の便に恵まれた岩間工業団地に工場を建設しました。岩間事業所はキヤノングループにおけるトナーカートリッジ生産拠点の役割を担っており、従業員は約9百人です。うち半数が交替勤務に就いています。生産ではプラスチック成型部品やゴム部品など部品生産から完成までを一貫して行う工場として操業しています。特に製造・組立ラインは自動化されていることから低コスト・高品質を実現しています。

―社会貢献として取り組まれていることはありますか?―



岩間事業所



トナーカートリッジ

制を確立しています。節電についても昨年は前年比30%減と大きな成果がありました。また、市民活動団体と共同で自然保護のイベントを実施したり、月に一度100人程の従業員が参加し、岩間事業所周辺の美化活動を実践したりしています。

―経営方針やモットーは?―

現在従業員の平均年齢が35歳で、定期的なレクリエーションやスポーツ大会なども行われ活気あふれる職場環境をつくれています。若い力を育てるべく人材育成施策にも力を入れ、スキルだけでなく社会人としての人間力の形成教育に努めています。生産にあたっては自動化を積極的に導入し、また交替勤務体制です。特に安心・安全・快適な職場環境づくりや労働災害ゼロ維持を目指しています。今後も従業員の活力を活かし現在の厳しい経済情勢を乗り越えるための新しい価値創出に取り組んでいきます。

「キヤノン化成株式会社」
所在地・笠間市安居2600-136
従業員数・923名(岩間事業所)
※文責▽笠間市役所企業誘致推進室(内線214)